



現代フランス小説における消失の形象

Figures de la disparition

dans le roman français contemporain

ドミニク・ラバテ氏（ボルドー第3大学）講演会

日時：2010年5月31日（月）16:30-18:30

場所：東京大学駒場キャンパス 101号館2階セミナールーム

司会：山田広昭（東京大学）

使用言語：フランス語 入場無料・事前登録不要

主催：東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)



講演者プロフィール

ドミニク・ラバテ (Dominique Rabaté)

ボルドー第3大学文学部教授。同学部にて研究グループ「モデルニテ」を指導。20世紀の文学作品を主な研究対象とし、近年はとりわけ、小説（ロマン）と他のジャンル形式の交差や、近代文学における「声」の問いに関心を向けている。モーリス・ブランショやルイ＝ルネ・デ・フォレ、パスカル・キニャール、マリー・ンディアイ、その他の作品を論じた研究をこれまでに発表している。

主著：*Vers une littérature de l'épuisement*, Paris, J. Corti, 1991、*Louis-René des Forêts: La voix et le volume*, Paris, J. Corti, 1991 (nouvelle éd. 2002)、*Poétiques de la voix*, Paris, J. Corti, 1999、*Le Chaudron fêlé: Écarts de la littérature*, Paris, J. Corti, 2006、*Pascal Quignard: Étude de l'œuvre*, Paris, Bordas, 2008、*Marie NDiaye*, Paris, Textuel, 2008、*Le Roman et le sens de la vie*, Paris, J. Corti, 2010 他。

邦訳著作：*Le roman français depuis 1900*, Paris, PUF, 1998 (『二十世紀フランス小説』(文庫クセジュ), 三ツ堀広一郎訳、白水社、2008年)。